
言語研究センター共同研究

CALLシステム利用の 先端的言語教育のデザインとその応用

松村文芳

CALLシステムのクライアント（学生用モニタ）画面にある「complay（コムプレイヤー）を使用するまでのサーバー管理者の業務を紹介しておきたい。本言語研究センターが管理するCALL教室（314を除く）にはビクター製のソフトウェアCALLとビデオ・オン・デマンド（VOD）を実行するビデオ転送ソフトが導入されている。

学生は画面に表示された「complay」のアイコンをクリックすることによって、VODサーバーに保存されている「*.mp4（エムペグ4）」というビデオファイルを画面に表示して、動画・字幕（中国語・英語）、音声を使用してビデオ教材を学習することができる。

学生にとっては簡単な操作で実行できるシステムであるが、教材作製者にとってはソフトの作成はアイデアの創出と時間のかかる作業が必要とされる。作成のおおまかな作業過程を紹介しておこう。第一はビデオカメラで教材を撮影する（ある

いは既存のDVDソフトを使用する）ことである。第二にビデオカメラに取り込まれた映像と音声をIEEE1394ケーブル（DVDの場合はAVケーブル）を使用して（DVDの場合はADコンバータを経て）編集用のパソコンに取り込む。第三は編集用のパソコンでは「ムービーメーカー（Windowsの場合）」や「Edius」、「Premiere」等のビデオ編集ソフトを起動して、送り込まれた信号を取り込み、「*.AVI」というファイルに保存する。第四にこの巨大なファイルを圧縮して「*.mpg」、「*.mp2」、「*.mp4」、「*.wmv」のファイルを作成する。第五にこのできたファイルを各CALL教室の教員用コンソールに設置された編集機から、VODサーバーに転送する。

以上がVODを使用したシステムの教材作成過程であるが、作成マニュアルが存在しないので既存の知識をフル活用して手探りで作業しなければならないのが現状である。
